

山盲だより 「むつぼし」第23号

発行 令和6年3月8日
山形県立山形盲学校

山盲祭より

期日：令和5年10月28日（土）

<発表の様子>

- ・ 幼小学部
 - 2・3・5年2組 「私たちの学校生活の1ページ」
 - 4年1組 「山形県の魅力発見！～方言って面白い～」
 - 5年1組 「聞いたよ 触ったよ 感じたよ 心に残った2日間の思い出」
 - 6年1組 「修学旅行の思い出」
- ・ 中学部 「ある日の中学部」
- ・ 高等部 理療科（専攻科） 意外と身近だった！？東洋医学の話
- ・ 軽音楽部 ピアノ弾き語り「栄光の架橋」

今年度PTA活動を振り返って

PTA会長

日頃よりPTA活動にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行したとはいえ、拡大防止対策を講じながら活動を進めてまいりました。

皆様のご協力により、PTAだより、PTA研修会、点字ブロック理解推進事業、そして寄付した施設に大変喜ばれたりサイクルウエス活動のPTA行事を実施することができました。

今後ともPTA活動に変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

コロナ禍後の教育活動

校長

新型コロナウイルスが5類に移行し、本校の教育活動は、ほぼコロナ禍前の状態に戻りつつあります。児童生徒は、様々な所へ校外学習に出かけ、他校との交流も盛んになり、生き生きと活動する様子が見られます。

一方で、コロナ禍に多用されたオンライン会議は、児童生徒の学習に定着し、東北地区の他の盲学校との交流等で今も活用されています。

今後は、コロナ禍に見出したよいものは生かしつつ、体験や交流を大事にしながら更なる教育活動の充実を図ってまいります。

リサイクルウエス活動

令和5年11月10日（金）

今年は昨年度よりもウエス（使い捨て雑巾）作りへの参加者が増え、古布・古着の回収にも多くのご家庭から協力がありました。SDGsの視点を取り入れ、地域に貢献しながらPTA会員同士の交流を図る「リサイクルウエス活動」が充実してきた年になりました。

PTAで作ったウエスは学校近隣の福祉施設に寄付し、大変喜んでいただいています。また、学校でも各クラスにウエスを配り、掃除の際に使っています。このウエスを使うことで、子どもたちがSDGsの考えに触れるきっかけになっていることを感じます。

参加者からの感想

- ・簡単でわかりやすい作業なので、スムーズに活動できた。夢中になって、あっという間に感じた。
- ・よく切れるハサミと大・小の型紙があってやりやすかった。作業時間もちょうどよかった。
- ・一枚の布から、無駄にならないように何枚取れるか考えながら切るところが楽しかった。
- ・いらなくなった物を再利用してから捨てるということが身近なところからできてよかった。
- ・みなさんが喜んでくださる活動に参加できてよかった。

点字ブロック理解推進事業

PTA活動として取り組んでいる「点字ブロック理解推進事業」ですが、今年度も本校ホームページ上への記事の掲載と点字ブロック理解啓発グッズによる活動を行いました。

点字ブロック理解啓発グッズとして、点字毎日新聞に掲載された「点字ブロックキーホルダー（警告ブロック）」を会員へ配付しました。カバンや財布などにつけ、点字ブロックの大切さを社会に知ってもらえるきっかけになればと思います。

- ・静岡県浜松市にある「NPO 法人六星」さんが運営する障がい者の通所施設「ウイズしじみ蛸つか塚」さんが販売している『点字ブロックキーホルダー（警告ブロック）』

校内PTA研修会

視覚障がい者のICT活用について

令和6年1月26日（金）

1. ICTやスマートフォンとは
2. ICT機器の利用状況
3. VoiceOverの使用方法
4. 便利アプリの紹介

参加者の感想

- ・視覚障がい者にとって、使って便利なアプリを紹介いただき参考になった。実際iPad

に触れて実践できてよかった。将来子どもが利用できるようになると、もっと地域で過ごしやすくなるだろうなあと感じた。

- ・見えない人が文字を入力する大変さがわかった。子どもと一緒にアプリを使ってみたい。
- ・iPadを使う機会がなかなかないので、使い方を知ることができてよかった。以前使ったときに画面が真っ暗になったことがあったが、それがどういう状態なのかがわかった。
- ・使ってみて難しさがわかった。子どもがこんな難しい操作をして頑張って勉強しているのだなと思い、感動した。
- ・今までに知らなかった内容で、自分自身のスキルアップになった。

学校生活のひとこま

スクールコンサート

山形交響楽団によるスクールコンサートが、10月16日に開催されました。最前列で迫力のある演奏を聴くことができました。

YBC アナウンサーによる読み聞かせ

プロによる言葉遊びや読み聞かせを聞き本の世界に入り込み、情景を想像しながら楽しい時間を過ごしました。

- ・小坂憲央アナウンサー「十二支のはじまり」
- ・松下香織アナウンサー「ぼくはにんげん」

小学部 遠足

今年は、山形市のコパルに行きました。班ごとに回り、様々な遊び場で友達とたくさん遊ぶことができました。

中学部 校外学習

9月に八木山動物園に行きました。飼育員の方の説明を聞きながら山羊と羊を触らせていただきました。山羊の角には血管があり温かいこと、足の細さや堅さ、毛の柔らかさなどを実際に触りながら確かめることができ、貴重な経験になりました。

また動物園の体験以外にも、電車や地下鉄の利用、券売機での切符の購入、電車の乗降、昼食代の支払いなど、実生活に生かすことができる様々な経験をすることができました。

高等部理療科 スペシャリスト講演会

12月1日、理療科スペシャリスト講演会を行いました。講師は、福島県立視覚支援学校教諭の水本剛志先生です。水本先生は全盲で、ご出身である群馬県の盲学校を卒業し、その後、筑波大学理療科教員養成施設を卒業なさいました。生徒と質疑応答をしながら理療科教員になるまでの過程や生活スキル、失敗談をわかりやすく話してくださいました。

自分でできることと自分では難しいことを見極め、難しいことは援助依頼をしたり、何事にも一生懸命取り組んだりして、早いうちから自分でできることを増やすこと、ICTを活用することが大事であるとのお話がありました。また、人との出会いやつながりが将来や進路のきっかけになることや、様々挑戦することで自信がついていくことを教えてくださいました。

生徒たちは、先生の実体験とユーモアを交えながらのお話を聞き、進学や就労への意識を高めることができました。

寄宿舎の活動

□余暇活動

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、集団で行う余暇活動を再開しました。季節の行事（七夕、クリスマス会）、ゲーム大会、テスト後のお疲れ様会などを行い、交流を深めることができました。

□ハロウィンカフェ

数年ぶりにカフェを開催しました。舎生の希望したメニューを準備し、当日は装飾品を身につけたり、「トリック・オア・トリート！」と言って盛り上がりたりして、楽しく和やかな時間を過ごしました。

卒業生からのメッセージ

6年間の思い出

小学部6年

私は6年間を振り返ると、楽しかったことや嬉しかったことがたくさんありました。例えば、今年のスポーツフェスティバルで、私たちの組が優勝したことです。私は、練習のとき休んでしまい、「練習不足で大丈夫かな。」と心配になりましたが、本番はみんなと協力して勝つことができたので嬉しかったです。私はこの六年間で、ご飯を炊いたり手先を使う仕事をしたりすることができるようになりました。中学部では部活が楽しみです。

盲学校に入学して

高等部理療科専攻科3年

障がいがあり、劣っている。自分一人では何も出来ないという劣等感しかなかった私は、いつしか挑戦することをやめてしまいました。

そんな私でしたが、先生方、先輩や後輩の皆さん、臨床に来て下さる地域の皆さん、沢山の皆さんの支えがあり、自分にも出来ることがあるはずだと変わることができました。

今の私の目標は、誰かの支えになる事、かつての自分のような方の手助けが出来るようになる事です。盲学校の卒業は私にとっての新たな出発地点で、これから長く険しい道のりが続くことでしょう。ですが、この学校で学んだことを胸に、目標に向かって挑戦をし続けていきます。

編集後記

新型コロナウイルス感染症の問題が少しずつ落ち着き、日常の学校生活に戻りつつあります。ここに、「むつぼし第23号」を発行できますことをうれしく思います。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

(PTA事務局)